

〈研究ノート〉

新語の理解度の男女差と年齢差

山下良奈

キーワード：新語、理解度、認知度、アンケート、有意差

要 旨

本研究では「逆ギレ」、「イケメン」、「婚活」など、新語と考えられる言葉がどのように認知され使われているかについてアンケートを実施し、その結果を年齢別、男女別に分析し考察を行った。本調査の限りでは、年齢差に着目した場合、基本的には若者がよく使う言葉が多いと考えられたものの、言葉によっては年齢差がさほど大きくなく、インターネットなどITの活用が身近になったことなどで幅広い年齢層に使用されるようになったことが示唆された。また、男女差に着目した場合では、女性の方が新語を多用する傾向があること、また女性の多用する言葉には人を指すものが多く含まれていることがわかった。新語は普及の途中段階にあり、普及していく際に語ごとに伝播の過程や速度が異なっていると考えられる。

1. はじめに

私たち¹⁾(グループ員:沖潮里, 櫻井美砂都, 中島明日可, 山下良奈)は現代日本語学のゼミナール(担当:荻野綱男教授)に所属している。私たちは大学生が普段使っている言葉で、新語であると考えられる言葉が年齢の異なる人達にとって、どのように認知されているのだろうかという疑問を持った。そこで、新語の理解度と使用場面についてのアンケート調査を行うこととした。

2. アンケートの内容の決定

アンケートを行うにあたり具体的にどのような言葉を取り入れるかについて案を出し合う中で、ネット言葉や若者ことば、流行語など、私たちが身近で面白いと感じる言葉がかなりあることに気付いた。様々な年齢の人に調査を行うならば、私たちが知っている言葉であっても、属性によっては認知されていない言葉があるはずであるという推察

から、「新語の理解度と認知度」について調査していくこととした。また、人々の新語を知る機会も合わせて知りたいと考え、調査項目に取り入れることとした。さらに性別や年齢によって新語の理解度や使用の有無に差があるのかどうかを調べることにした。

アンケートの質問形式は、自由記述形式であると集計や分析が困難となるため、当てはまるものに丸を付けてもらう選択肢式としたが、上記の意図を含めた選択肢を考えるのは骨が折れ、再三議論を重ねることとなった。最終的に、「1. SNSで使用する」「2. 話し言葉で使用する」「3. SNSと話し言葉の両方で使用する」「4. 知っているがSNSと話し言葉では使用しない」「5. 知らない」という5つの選択肢を設けることになった。回答者に新語を使った短文を読んでもらい、上記の5つの選択肢1から5の番号の中からどれか一つを選択してもらうことにした。

今回アンケート対象とした新語は、グループ員で、最近自分達が使いだした言葉や、ネットやメディアで目にするようになった言葉などを中心に意見を出し合って選定した。その際、私たちが考える新語の語釈や、その新語を使用した質問文を作った。質問文は新語の部分を外した形でも意味がわかるものであること、一文が30字以内であることを条件に考えた。また、新語の表記方式が複数あった場合(例 *ぐる*、*ググる*)は、webのサーチエンジンで検索した際にヒット件数が最も多い表記を採用した。まず50語を選んで試作アンケートを作成し、ゼミのメンバーによる予備調査(21人)を行った。その結果から大半のメンバーに認知されているものや逆にほとんど認知されていないものを除いて30語に絞った。

3. 調査の実施方法

特殊研究ゼミナールでアンケート調査を行うことが決まり、グループ分けが行われた後、各グループそれぞれ興味があることについてアンケートの文面を作成し、各グループ分をとりまとめ、本アンケートを完成させた。当該アンケートは日本語の使い方とその意識についての調査・研究を目的としたものである。前期授業の最後にゼミナールの学生が印刷済みアンケート用紙を20部ずつ持ち帰り、配布・回収を行った。

私たちのグループは、学生の夏休みに当たる平成26年8月から9月にかけて調査を実施した。調査対象は、主に中年層である40代の人々が中心となる、ゼミナールメンバーの両親や、両親の知り合いの人物とした。また、国文学科一年生配当の必修科目である日本語学入門(担当:荻野綱男教授)を受講する学生(146人)にも、本アンケートに回答してもらい、最終的には445人分のアンケートが集まった。その後、収集したアンケートをゼミナールの学生で分担し、データの入力を行った。

アンケートの文面そのものは、本稿末尾に付録として示す。以下、調査結果について述べていく。

4. アンケート回答者の概要

最終的に全部で445人分のアンケートを回収したが、項目によっては答えがなかったことなどによって回答者数が異なるため、項目ごとの回答者数をそれぞれの集計結果に添えて示す。まず、回答者の年齢分布を表1に示した。

表1 回答者の年齢別単純集計(n = 443)

歳	人数	%	歳	人数	%	歳	人数	%
15	1	0.2	38	5	1.1	56	10	2.3
16	2	0.5	39	3	0.7	57	11	2.5
17	3	0.7	40	7	1.6	58	4	0.9
18	68	15.3	41	6	1.4	59	3	0.7
19	82	18.5	42	4	0.9	60	6	1.4
20	34	7.7	43	4	0.9	61	5	1.1
21	27	6.1	44	5	1.1	62	1	0.2
22	16	3.6	45	6	1.4	63	4	0.9
23	6	1.4	46	3	0.7	64	5	1.1
25	3	0.7	47	8	1.8	65	1	0.2
27	1	0.2	48	2	0.5	66	3	0.7
29	4	0.9	49	11	2.5	68	1	0.2
30	3	0.7	50	8	1.8	70	2	0.5
31	2	0.5	51	5	1.1	74	1	0.2
32	4	0.9	52	8	1.8	75	1	0.2
35	2	0.5	53	11	2.5	78	1	0.2
36	1	0.2	54	8	1.8	79	1	0.2
37	5	1.1	55	13	2.9	85	2	0.5

この集計結果から年層別グループの区分を考えた。今回のアンケート調査は様々な年層の人々に対し行ったが、最終的に若い人に多く答えてもらったことがわかったため、年層グループを若年層(15-22歳)、中年層(23-53歳)、高年層(54-85歳)の3グループに分けることとした。これは、細かく分けすぎると1グループの回答者が少なくなり十分な分析ができないこと、逆に粗く区分しすぎると年層差という大事な情報が得られなくなることを考慮した結果である。この年層グループと性別のクロス集計を表2に示す。性別あるいは年齢を回答しなかった人が3人いたので、表2の右下の総合計は442人になっている。

表 2 性別×年層グループ(人数)

	若年層 (15-22 歳)	中年層 (23-53 歳)	高年層 (54-85 歳)	合計
男	110	40	35	185
女	123	86	48	257
合計	233	126	83	442

5. アンケートの単純集計

新語として選んだ30語に対する回答を、前述の5つの選択肢で単純集計した。その割合を図1に示す。

図1は、交互平均法²⁾で得られた数値の昇順で項目と選択肢を並べ替えたものとなっている。交互平均法の値は、30の項目に着目した場合には、選択肢5つのどの回答が多かったかの類似度を示したものとなっているとともに、5つの選択肢に着目した場合には、30のどの項目でその選択肢の回答が多かったかの類似度を示している。すなわち、回答の相互の類似を基準とした場合の最適な配置順となっている。よって図1は、項目に関しては一番上がよく使われる新語、一番下があまり知られていない新語という順に配列されていることになる。また5つの選択肢も交互平均法の結果によって並べ替えたので、「2. 話し言葉で使用する」が新語を使う場合の最も多い回答ということになり、「5. 知らない」が最も回答の少ない選択肢ということになる。3, 1, 4は両者の中間的存在ということになる。

「逆ギレ」(図1の一番上) のようによく使用されている新語もあれば、「ベア」(図1の一番下) のようにあまり知られていない語もある。また、「1. SNSで使用する」は、「なう」のような一部の新語を除き、選択肢を設けたものの回答される比率が低く、あまり意味がないように思われた。また、「2. 話し言葉で使用する」と「3. SNSと話し言葉の両方で使用する」の回答パターンが、「ニート」「クールビズ」のように一方の比率が高いと他方も高く、「パチモン」「しくった」のように一方が低いと他方も低いというように、似ている傾向を示す語が多く見られた。このことは、交互平均法の結果の数値でも示され、次のようになった。

「2. 話し言葉で使用する」=1.00

「3. SNSと話し言葉の両方で使用する」=1.52

「1. SNSで使用する」=2.40

「4. 知っているがSNSと話し言葉では使用しない」=2.63

「5. 知らない」=5.00

「2. 話し言葉で使用する」と「3. SNSと話し言葉の両方で使用する」の交互平均値が近いということは、図1の「2. 話し言葉で使用する」と「3. SNSと話し言葉の両方で使用

する」の帯の幅の30項目分のパターンが似ているということの意味する。アンケート調査を行う前においては、これらの語それぞれが「SNSで使用する」のか、それとも「話し言葉で使用するのか」など、使用する場の違いが見られるのではないかと考えていた。しかし、この区分はあまり意味がないことになる。

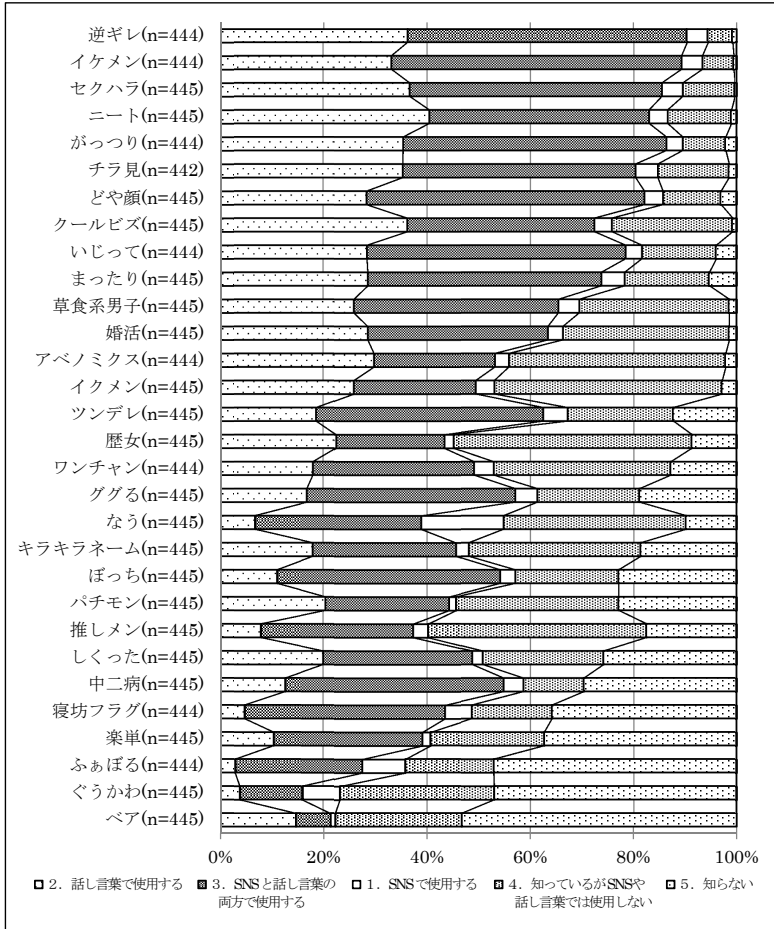


図1 新語30項目の5つの選択肢の単純集計(交互平均法の値昇順)

一方、年層とSNS (Twitter, LINE) の使用状況でクロス集計を行ったところ、SNSの使用状況に大きな年層差があるという結果が示された。年層別のSNSの使用状況を以下図2～図3に示す。

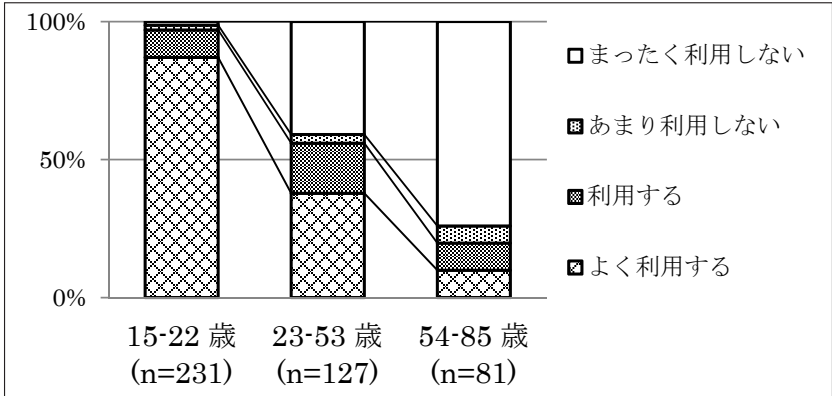


図2 LINEの使用状況

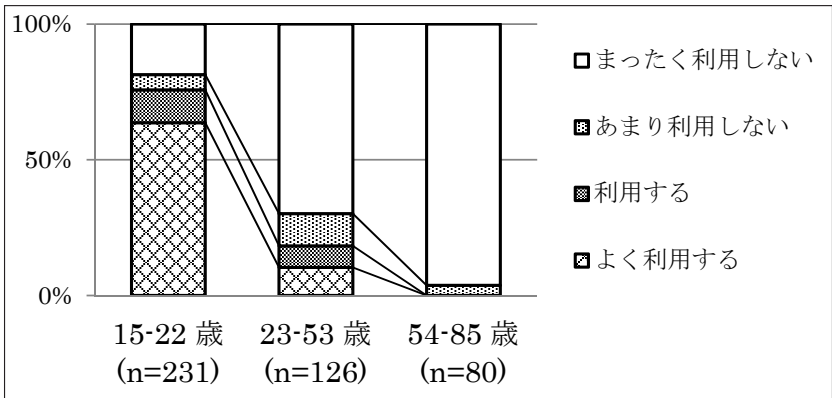


図3 Twitterの使用状況

したがって、今回の新語の項目を当初の5区分の選択肢のまま年層別にクロス集計すると、これが結果に影響し、SNS使用状況の年層差が表に出てきてしまう。つまり、選択肢5区分による回答は、使用する場面の違いでなく、年層差を反映するものになってしまう。この結果によっても、使用する場を区別したこれら3つの選択肢をそのままにして集計・分析していく意味はあまりないと判断した。したがって以下では、SNSで使うか、話し言葉で使うかの差を無視して、選択肢1～3を一緒にして扱うことで、SNS使用状況の年層差の影響を除外し、これらの語の使用状況を明らかにする。

6. クロス集計と χ 二乗検定

回答時の選択肢の「1. SNSで使用する」「2. 話し言葉で使用する」「3. SNSと話し言葉の両方で使用する」これら3つをひとまとめにして「使用する」としてクロス集計表を作成した。併せて χ 二乗検定³⁾を各項目について性別、年層別に行った。

以下では、ここでの「使用する」の選択肢を回答した率を使用率と呼ぶ。なお、これら新語の使用率は、性や年層によって異なる傾向を示すことが予想されるため、集計結果を性別、年層別で区分し、詳細な分析を加えることにする。また、若年層の比率が全回答者の約半数を占めるため、性差には若年層の影響が大きくなる傾向が予想される。よって、新語項目における年層別の性差の検討をした結果、必ずしも男女別の傾向が若年層の傾向に偏っているとは言えないと判断できたことから、複雑な結果を示すことを避け、以下、男女差をもとにした分析結果と年層差をもとにした分析結果をそれぞれ示していく。

6.1 性差の分析結果

性別クロス集計では、性別のカテゴリーが2種類、回答が3種類あるため、クロス表の自由度は2になる。計算した χ 二乗値が5%水準の基準値5.99147よりも大きい値を示したのは「歴女、中二病、ワンチャン、まったり、パチモン、イケメン、イクメン、草食系男子、婚活、ペア、どや顔、なう、推しメン」の13項目であり、これらには有意な性差があるといえる。

ただし、 2×2 を超えるクロス集計では、 χ 二乗検定で有意差があったとしても、クロス表のどのセルが有意差に寄与しているかが不明となる。それを確認するために残差分析⁴⁾を行うこととした。

ここでは、 χ 二乗検定で有意差のあった13項目のうち、一例として、歴女に対して行った残差分析について説明する。表3は、歴女の男女別のクロス集計表である。数値は回答人数および割合を示す。

表3 「歴女」の男女別クロス集計表（ ）内は割合

	使用する	知っているが 使用しない	知らない	合計
男	63 (0.34)	96 (0.52)	26 (0.14)	185 (1.0)
女	137 (0.53)	109 (0.42)	12 (0.05)	258 (1.0)
合計	200 (0.45)	205 (0.46)	38 (0.09)	443 (1.0)

この結果に対して残差分析を行い、調整済み残差を計算した結果を表4に示す。

表4 表3に対する調整済み残差

	使用する	知っているが使用しない	知らない
男	- 3.973	2.008	3.485
女	3.973	- 2.008	- 3.485

この調整済み残差は、1.96以上の値のところが有意に大きいところ、-1.96以下の値のところが有意に小さいところを示すため、「使用する」については女性の方が有意に大きい、つまり男性に比べより多く使用するということを意味する。また、「知っているが使用しない」については男性の方が有意に大きい、つまり女性に比べより多く、知っているが使用しない、「知らない」については男性の方が有意に大きい、つまり男性の方が女性より多く知らないということの意味する。

同様の内容を、性差については χ^2 乗検定で有意差が認められた13項目について行った。つまり、これらの項目において「使用する」「知っているが使用しない」「知らない」の調整済み残差の値(13×3=39個)が1.96以上であるのか、1.96未満-1.96より大きいのか、-1.96以下であるのかを確認した。

使用率に関する残差分析の結果も考慮した上で、これら13項目を①男女どちらの使用率が高いか、②その使用率が高いか中間か低いか、の二つの基準で大きく6分類した。そのうちの一つは当てはまるものがなかったため、結果的に全部で5グループに分類することとなった。使用率の分類基準は、使用率の高い性別がそれぞれ50%を下回るものを「低い」、使用率の低い性別がそれぞれ50%を上回るものを「高い」とし、どちらにも当てはまらないものを「中間」とした。13項目の分類結果を表5に示す。

表5 使用率における性差の観点から見た新語13項目の分類

		使用率における性別の偏り	
		女性>男性	女性<男性
使用率	低い (男女とも50%未満)	第1グループ 推しメン	第4グループ ペア
	中間的 (男女いずれかが50%未満)	第2グループ イクメン、歴女	第5グループ パチモン、ワンチャン
	高い (男女とも50%超)	第3グループ 草食系男子、婚活、中二病、 まったり、イケメン、 どや顔、なう	第6グループ 該当なし

以下、各グループに属する新語の一例のグラフを図4～8に示す。男女別回答者数はいずれも女性が258人、男性が185人であった。

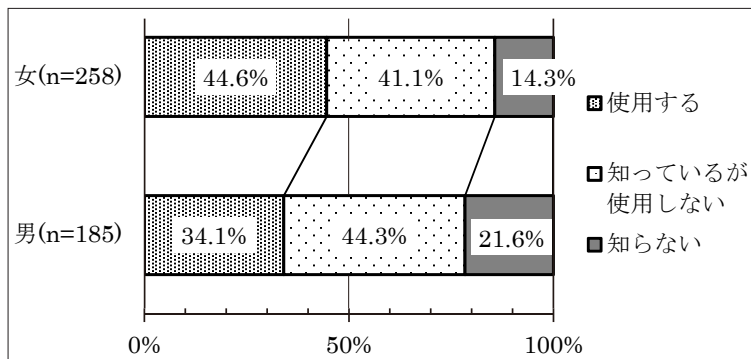


図4 第1グループ「推しメン」(性別)

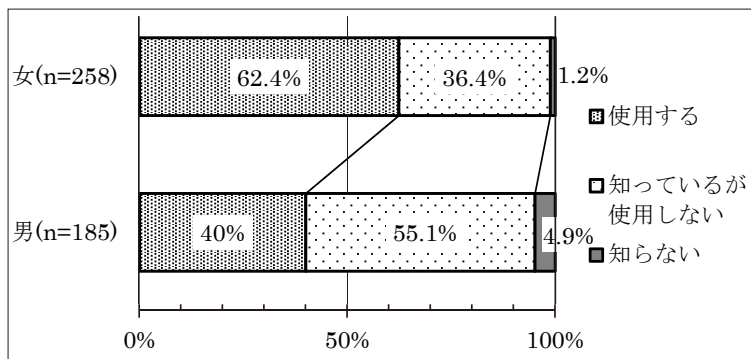


図5 第2グループ「イクメン」(性別)

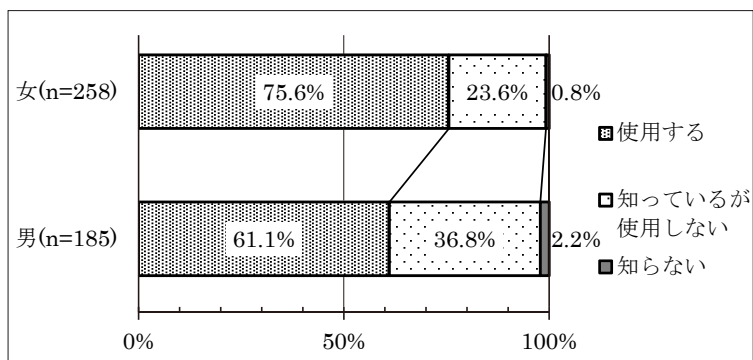


図6 第3グループ「草食系男子」(性別)

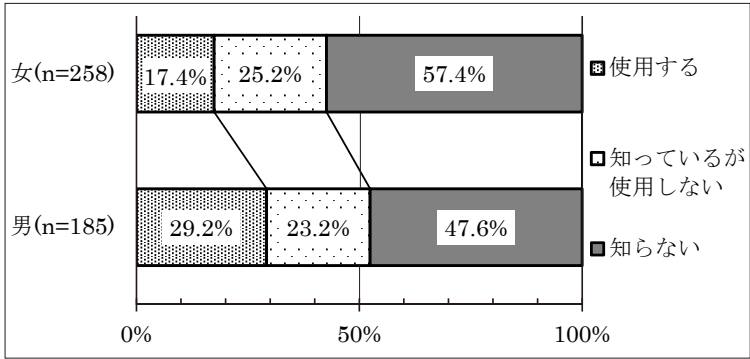


図7 第4グループ「ベア」(性別)

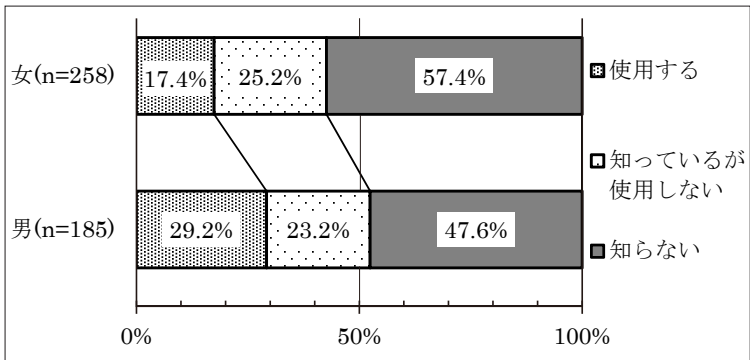


図8 第5グループ「パチモン」(性別)

男女で有意差があった13項目全体に共通する傾向は見いだせなかったが、女性が多
用する言葉には、「推しメン、イケメン、イクメン、草食系男子、歴女」などを指す
言葉が多く含まれることが特徴である。一方、男性が多用する言葉は「パチモン、ワ
ンチャン」という言葉であり、これは端的に言うとは社会生活で使う言葉とは縁遠い、いわ
ば学生の友人同士でのみ使われるような軽い言葉であるように感じる。また「ベア」と
いう語に関しては、男女の使用率が共に3割以下となり他の語に比べて低くなっている。

なお、ここでの有意差のありなしというのは、使用率において統計的に意味のある差
があるかないかということである。つまり有意差があることの背景には、例えば好みに
合うとかその語を使用する状況が多いなど男女それぞれに理由があると推察されるのだ
が、今回のデータからは、その理由は明確にわからなかった。

次に、有意差がある項目について得られた結果に対する考察を行う。男女でクロス集

計を行った結果、指し示す事象が男である「草食系男子、イクメン、イケメン」の使用率は女性の方が高い。

ここで挙げた言葉というのはいずれも男性を指す言葉である。私は当初、男女は互いに自分を指す言葉より異性を指す言葉を意識し、多用するのではないかと考えた。しかし一方、女性を指し示す言葉である「歴女」でも、使用率は女性の方が高いという結果が得られた。よってこの推察は必ずしも成り立たず、むしろ全体的に女性の方が人を指す言葉を多用しているという考え方もできる。その裏付けは今後、女性を指す新語、例えばリケ女などを調査するとより明らかになると考えられる。

また、これらの言葉を「知っているが使用しない」男性が多い理由は、男性が会話で自分達の性格を表現するような言葉を使用するという状況はあまりないのではないかと考えた。全体を通じて性差の分析で有意差がある13語のうち、女性の使用率が高いのは10語であり、今回の範囲の調査では、女性が多用する新語の方が多いという結果が出た。この理由について、女子会やママ友同士の会話など、女性には話好きであることを連想させる言葉があるように感じるため、この結果につながったのではないかと考えた。ただしこの裏づけを明確にするには、例えばこれらの新語をどんな局面で知ったのか、あるいはどのような状況で使うのかなどの詳細な調査が必要であろう。

6.2 年層差の分析結果

年層別クロス集計では、クロス表の自由度は4になる。 χ 二乗値が5%水準の基準値9.48773よりも大きい値を示したのは「セクハラ」以外の29項目であり、これらには有意な年層差があるといえる。性差分析同様、これら29項目に対して残差分析を行い、調整済み残差の値(29×3=87個)を確認した上で年層別パターンの似たものを分類したものが表6である。

表6 年層差の観点から見た新語29項目の分類

		使用率における年層の偏り		
		若年層が最も高い	中年層が最も高い	高齢層が最も高い
使用率	低い 全年層50%未満	第1グループ ぐうかわ、歴女	第4グループ 該当なし	第7グループ ペア
	中間 いずれかの年層 では50%未満	第2グループ ツンデレ、中二病、キラキラネーム、ググる、ワンチャン、ぼっち、寝坊フラグ、しくった、まったり、パチモン、楽単、なう、ふあぼる、推しメン	第5グループ イクメン	第8グループ アベノミクス
	高い 全年層50%超	第3グループ ニート、チラ見、がつつり、いじって、どや顔、逆ギレ、イケメン	第6グループ 草食系男子、婚活	第9グループ クールビズ

具体的には29項目を、①各年層の使用率の大小比較、②その使用率が高いか中間か低い、の二つの基準で大きく9分類した。そのうちの1つは当てはまるものがなかったため、結果的に全部で8グループに分類することとなった。使用率の分類基準は、使用率の高い年層が全て50%を下回るものを「低い」、使用率の低い年層が全て50%を上回るものを「高い」とし、どちらにも当てはまらないものを「中間」とした。

以下、各グループに属する新語の一例を取り上げ、その結果を図9～16に示す。

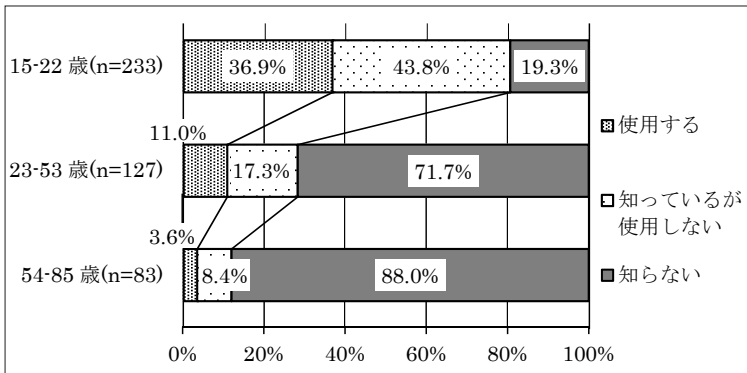


図9 第1グループ「ぐうかわ」(年層別)

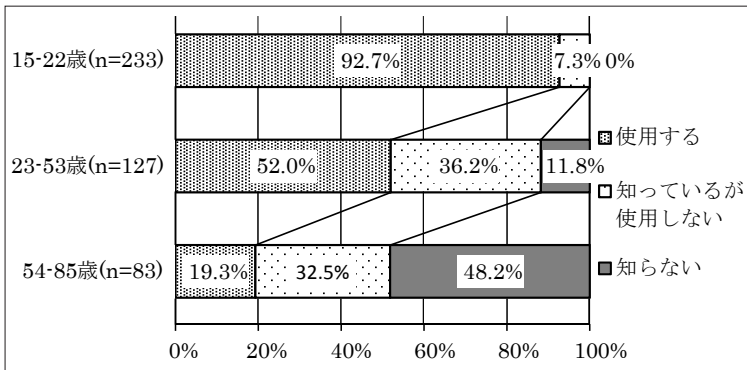


図10 第2グループ「ツンデレ」(年層別)

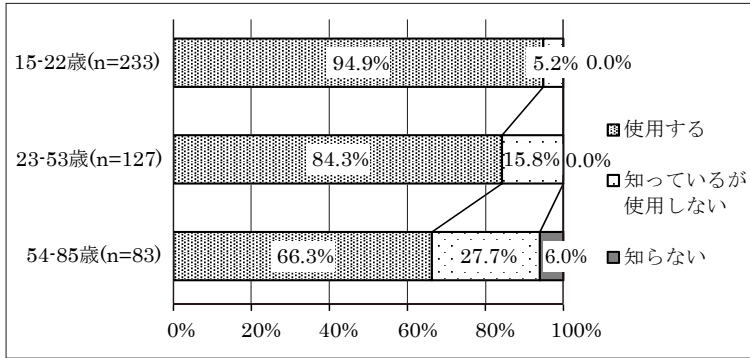


図 11 第3グループ「ニート」(年層別)

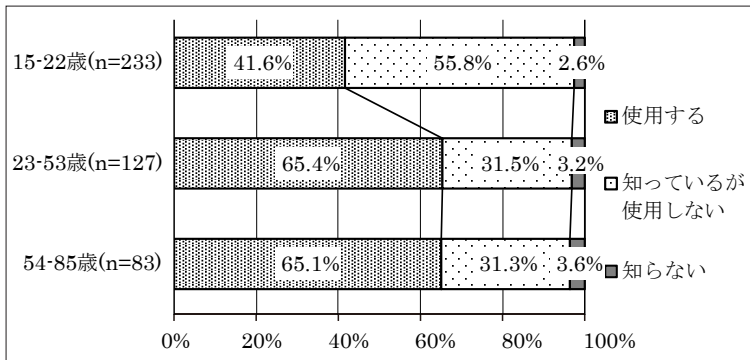


図 12 第5グループ「イクメン」(年層別)

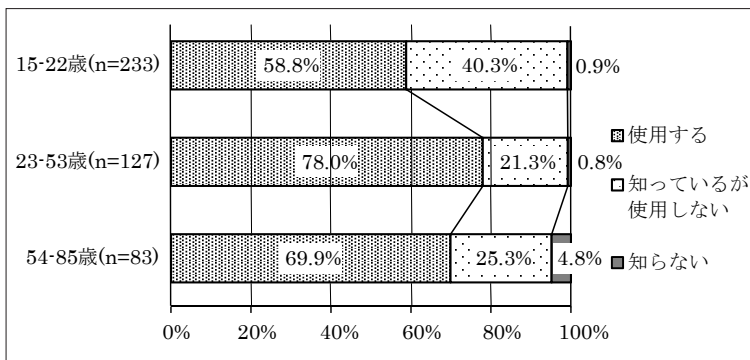


図 13 第6グループ「婚活」(年層別)

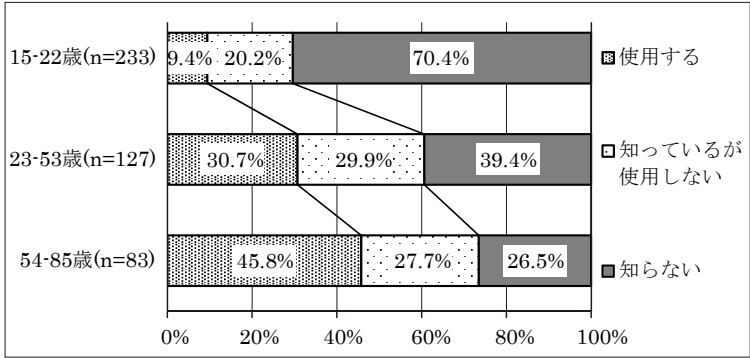


図 14 第7グループ「ペア」(年層別)

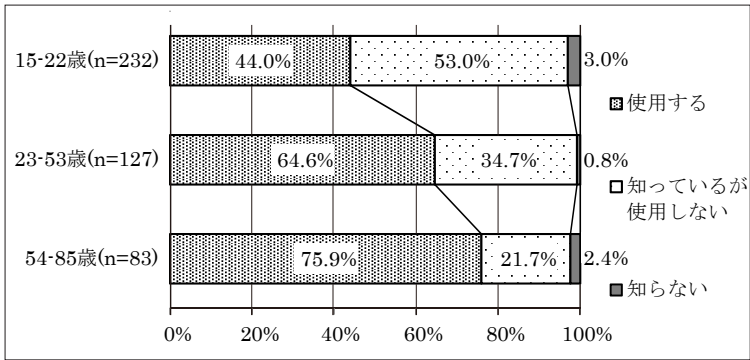


図 15 第8グループ「アベノミクス」(年層別)

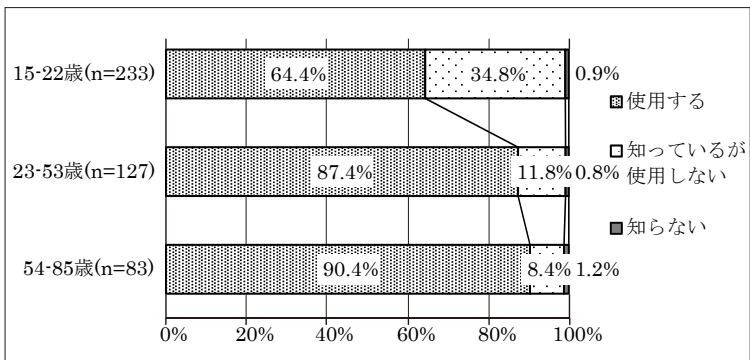


図 16 第9グループ「クールビズ」(年層別)

以下、グループごとの特徴について考察していく。

まず、第1グループに属するのは「ぐうかわ、歴女」の2語で、この言葉の使用率は最も若年層が高くなっている。「ぐうかわ」では、使用率は年層が上がるにつれて低くなっており、「歴女」では年層による違いは「ぐうかわ」に比べ少ないものの、若年層が一番高い結果となっており同じグループに属している。どの年層においても使用率が50%を下回っているため使用する割合は少ないと言える。また、知らないと回答した割合は年層が上がるにしたがって多くなり、特に「ぐうかわ」に至っては知らないと回答した割合が、中年層では7割、高年層では9割近くとなっており、年層差が顕著である。顕著な年層差の理由としては、比較的新しく発生し若年層に急激に普及した言葉であるか、または使う局面がよく知られていないのではないかということなどが推察される。

第2グループに属するのは「ツンデレ、中二病、キラキラネーム、ググる、ワンチャン、ぼっち、寝坊フラグ、しくった、まったく、パチモン、楽単、なう、ふぁぼる、推しメン」である。このグループに属する語は突出して多く29語中の14語を占めている。使用率は、第1と同様、若年層が最も大きくなっており、年層が上がるにつれて小さくなっている。このグループのもう一つの特徴は使用率の年層差が極めて大きいということである。一例として「中二病」は、若年層では9割を超える使用率がある一方で、高年層では1割にも満たない。この言葉はインターネット上の掲示板などで広まったとされており、図2、3にも示したSNSなどの使用率の反映と考えるのが妥当であろう。

また「楽単」という言葉は、学生だけが使うと思われる言葉であるが、中年層でも「使用する」が12%、「使わないが知っている」も25%と、予想以上に認知されていることがわかった。この理由としては、中年層にもインターネットなどITの活用が身近になったことや、自分の家族や子供などから情報を得たり会社での若い新入社員と話をすることがあったりすることなどがあるのではないかと考える。

第3グループに属するのは「ニート、チラ見、がつつり、いじって、どや顔、逆ギレ、イケメン」である。第1、2グループと同様、この言葉の使用率は若年層が最も高くなっており、年層が上がるにつれて小さくなっている。一方このグループに属する語の特徴は、極めて使用率が高く、特に若年層では9割を超え、使用率の最も低い高年層でさえ5割を超えていることである。

第5グループに属するのは「イクメン」である。大きな特徴としては若年層の使用率が4割程度にとどまっているものの中年層、高年層では7割弱の使用率があることである。この語が子育て世代を指す言葉で、文字通り、育児をする男性を指すことから、子や孫を育てる世代の使用率が高いことは妥当な結果であるといえる。

第6グループに属するのは「草食系男子、婚活」である。このグループに属する語の特徴は、どの年層でも使用率が50%超えると同時に中年層が最も高いという傾向である。中年層での使用率はいずれも7割を超えている。この結果を考察すると、「草食系男子」、「婚活」が、恋愛や結婚を連想させる言葉であることが関係している可能性が考

えられる。この年層の中には自らの恋愛や結婚を意識している人が多く含まれているのではないかと考えた。結婚を意識する年齢は一括りにはできないが、これらの語は知っているが使用しないと答えた割合が低いことから考えても、その世代にとっては話題に上りやすいとともに、結婚に向け実際に行動している人が多く含まれていることが推測される。

第7グループに属するのは「ベア」、第8グループに属するのは「アベノミクス」、第9グループに属するのは「クールビズ」であるが、使用率の大小により3つのグループに分けたものの、これらのグループに共通しているのは、若年層の使用率が最も低く、年層が上がるにつれて使用率が高くなっていることであり、今までのグループとは逆の傾向を示している。これらの表現は政治経済に関するニュースや話題の中で使われており、使用者は主に社会人である。このため、これらの表現は年層が上がるにつれて使用率が高くなっていると考えた。

また、「ベア」に関して言えば、私たち大学生にとって「ベア」はなじみがなく、これを新語としてアンケート調査に入れたものの、実際は一昔前に使われていて新語とは言えないものであった。つまりこの言葉はかなり古い言葉であり、定着したのは1960年代に始まった所得倍増計画の時代とされている。若年層が知らないと答えた割合が7割を超えるのに対して、中年層、高年層が知らないと答えた割合は、4割程度にとどまっている。

なお、この「ベア」の結果を見て、2つのことに思い至った。1つは自分たちになじみがなく、最近脚光を浴びてきたから新語と決めつけるのは間違いということである。つまり、調査にあたって自分たちが対象とする言葉の意味や性格を明確にすることが極めて大切ということである。もう1つは、「ベア」の位置づけとの関係である。

この結果を見てまず頭に浮かんだのは、日本経済の低迷により「ベア」自体があまり行われなくなってしまったことである。元々ベアにはインフレへの対応の意味合いがあるため1990年代以降のデフレ不況において議論されることが少なくなり、社会全体として言葉を耳にする機会が減ったのではないかと推定した。一方、若年層にとって極端に認知度が低いのは、そのことだけでは説明がつかないことから、むしろライフステージと関わりがあるということに思い至った。具体的には、ここでいう若年層は22歳以下、ちょうど一般的な学卒の就労年齢と一致することから、ベアは「就労していない年層になじみのない語」になっている可能性が高い。よって、就労して自らの賃金に強い関心を持つようになると、景気の状態いかんによらず、使用率が上がるようになることが考えられる。

この他にも、一過性で終わる言葉もあれば、一定の期間市民権を得つつも社会情勢やライフスタイルの変化に応じてだんだんと使われなくなる言葉も当然あるであろう。経済用語、社会用語にこのような傾向が当てはまることが考えられるため、今後その観点で調査してみると興味深い結果が得られるかもしれない。なお、今回のグループ分けで

は属する新語が一語のみのグループが9のうち4を占めたため、これらのグループに属する共通の言葉の特徴について詳細な考察はできていないが、今後、他の新語を加えたアンケートを行い、これらのグループに属する言葉が複数出てくれば、そのグループに共通する傾向がより明確になると期待できる。

7. 終わりに

以上、新語のアンケート調査を行った結果を基に、性別、年層別の有意差に基づき分析した結果、以下のことがわかった。

- ①年層が上がるにつれて使用率が低くなっている言葉が最も多いため、基本的には若者がよく使う言葉を調査したと言える。ただし言葉によってはさほどその差が大きくないものもあった。それらは、若年層が使っているのを見聞きして中高年層が使うようになっていったのではないかと推察された。
- ②性差に着目した場合では、女性の方が新語を多用する傾向があること、また女性の多用する言葉には人を指すものが多く含まれていることがわかった。
- ③「楽単」という、学生だけが使うと思われる言葉であっても、一定程度中年層で認知されていることがわかった。この理由としては、中年層にインターネットなどITの活用が身近になったことや、自分の家族や子供や会社での若い新入社員経由で受容しているのではないかと考える。

このアンケートは平成26年に行われたものである。今回調べたような言葉は比較的新しく耳にした言葉の中で、ある程度世の中に広く知れ渡っているものであると考え調査を行ったが、性差や年層別で詳細に分析すると、言葉によって使用率の大小や傾向に差があるという興味深い結果が得られた。ただ、分析を加えて新語をいくつかのパターンに分けることはできたものの、その理由や意味合いを特定するには至らなかった。特に年層差分析においては、残差分析に応じて9の分類に区分けしたものの、一項目だけのグループが4つあったことは、今回の30語の選択に問題があった可能性も考えられる。「ベア」でも触れたように、新語として選ぶに際しその定義の明確化が不十分であったことや選んだ30語の性質が偏っていた可能性も否めないが、新語とはそもそもそのような偏りを見せるものであることも考えられる。結果的に、新語は使う人も使わない人も知らない人もいるということから、普及の途中段階にあること、また普及していく際に語ごとに伝播の過程や速度が異なっていることが言える。従って、新語の研究をする際は、上記の点を踏まえてさらに語数を増やしていくとともに丁寧に一語ずつ調べていくしかないということかもしれない。

世相や重大ニュースとも相関があると考えられる新語は、今後どのようにして生まれ続けていくのか楽しみである。

[注]

1) 私たち

調査の企画はグループ員4人が相談して行い、分析は4人がそれぞれ分担して行ったが、学
年末レポートの提出後、指導教員のすすめにより、全調査項目の分析を山下が一人で
行い、個人名で公刊することにした。

2) 交互平均法

複数の変数間の関係、および回答間の関係を数値で一次的に表す手法である。具体的
な計算法については、荻野(1980)を参照のこと。

3) χ 二乗検定

独立性の検定であり、クロス表の行と列の連関の有無の数値的確認である。

4) 残差分析

残差分析についての詳細と計算方法は井口(2014.9)を参照のこと。

[参考文献]

ネット用語辞典「ネット王子」(2015年2月23日現在)

<http://netyougo.com/>

日本語俗語辞書

<http://zokugo-dict.com/>

広辞苑 第六版 新村出編 2008年 岩波書店

Yeemars HP (2015年2月23日現在)

<http://www.asahi-net.or.jp/~QM4H-IIM/index.htm>

実用日本語表現辞典

<http://www.practical-japanese.com/>

現代カタカナ語辞典 旺文社 2006年 電子辞書 CASIO エクスワード XD-SP4800

日本の賃金—歴史と展望—調査報告書 2012年 公益財団法人 連合総合生活開発研究所

[引用文献]

荻野綱男(1980)「敬語における丁寧さの数量化」『国語学』第120集 国語学会

井口豊(2014.9)「カイ二乗検定(独立性検定)から残差分析へ:全体から項目別への検定」

<http://note.chiebukuro.yahoo.co.jp/detail/n71838>

付録1 調査した新語30項目の意味

アンケートで用いた新語をアンケート用紙の質問順に並べ、それぞれの意味を参考文献に基づいて記した。

- ①ニート = (not in employment, education or training) 職業に就かず、教育・職業訓練も受けていない若者。無業者。イギリスで生まれた語で、2004年ころから日本でも問題化。
- ②歴女 = 歴史好きの女性を意味する言葉。
- ③ツンデレ = 人前ではツンツンしているが二人きりになるとデレデレするカップル。漫画やゲームのキャラクター、小説のヒロインなどにしばしば使われる。
- ④中二病 = 思春期にありがちな行動・思考(症状)のこと。
- ⑤キラキラネーム = 一般常識では考えにくい名前の事である。当て字が多く一見して正確に読むことはほぼ不可能に近い。
- ⑥ググる = 「Googleで検索する」ことを意味する言葉。
- ⑦ワンチャン(←ワンチャンス) = 〔俗〕〔一〕(名) 一度のチャンス。可能性。「まだ一ある・一をものにする」〔二〕(副) 〔可能性は低いが〕ひょっとすると。「チャリで行けば一間に合う」
- ⑧ぐうかわ = 「ぐうの音も出ないほどかわいい」という意味。
- ⑨ぼっち = ひとりぼっちのこと。
ひとりぼっち = (ヒトリボフシの訛) たったひとりであること。孤独であること。また、その人。
- ⑩フラグ = 条件分岐の目印を指す言葉である。語源は英語「Flag」(旗)であり、方向性が大きく変わっていく分岐点を指し示すものとしての意味がある。伏線と近い意味があり「恋愛フラグが立った」という場合、ある特定の条件により恋愛に発展するチャンスが訪れたと意味になる。「寝坊フラグ = 寝坊しそうな条件・状況」
- ⑪しくる = 失敗すること。「しくじる」の略で、失敗することや何かをし損ねて目的が達成できないことをいう。過去形『しくった』での使用が多い。
- ⑫まったり = 人柄が落ちついているさま。転じて、ゆっくりとくつろいでいるさま。
- ⑬セクハラ = セクシャル・ハラスメントの略。性にかかわって人間性を傷つけること。職場や学校などで、相手の意に反して、とくに女性を不快・苦痛な状態に追い込み、人間の尊厳を奪う、性的なことばや行為。性的いやがらせ。
- ⑭チラ見 = 「チラッと見る」及び「チラチラ見る」が略されたもので、瞬間的に見ること。
- ⑮パチモン = 偽物のこと。「パチモノ」が音的に崩れた言葉で、パチモノ同様に偽物を意味する。
- ⑯逆ギレ = (「逆に切れる」から) それまで叱られたり注意を受けたりしていた人が、逆に怒り出すこと。
- ⑰イケメン = (「いけている」の略「いけ」と顔を表す「面」とを合わせた俗語か。多く片仮名で書く) 若い男性の顔かたちがすぐれていること。また、そのような男性。
- ⑱がっつり = 「思いきり」「思う存分」といった意味の言葉。
- ⑲クールビズ = [日 Cool+Biz (←Cool+business)] 勤め人が職場で身につける夏の軽装を指す言葉。基本的にノーネクタイで背広の上着は状況に応じて着たり着なかったり。地球温暖化防止に沿った省エネルギー運動の一つで、環境省が一般から公募して決めた。冷房温度を高めに設定し、エネルギー節約を図るのが狙い。↔ウオームビズ
- ⑳イクメン = 育児を楽しむ男性。育児を積極的に行う男性のこと。
- ㉑草食系男子 = 協調性が強く、家庭的だが恋愛に不向きなタイプのこと。

- ②婚活 = 結婚するための活動のこと。
- ③楽単 = 主に大学生の間で俗に用いられる、「単位が楽に取得できる科目」を意味する語。
- ④ベア = ベースアップの略。ベースアップ～ (和製語 base up) 個別企業の賃金支払総額を従業員総数で除した平均賃金 (ベース賃金) を引き上げること。
- ⑤いじる = いじめる。なぶる。
- ⑥どや顔 = 得意気な顔のこと。
- ⑦アベノミクス = 安倍総理が安倍内閣で掲げた経済政策の通称。
- ⑧なう = 現在の所在地や状態、行動を表現する言葉。= ～中 (ちゅう)。
- ⑨ふぁぼる = 特定のツイートをお気に入りに追加する行為を意味する言葉である。語源は英語でお気に入りを指す「Favorite」の「favo」から。
- ⑩推しメン = 「推しているメンバー」の略語であり、グループの中で自らが応援しているメンバーを指す言葉である。

付録2 アンケートの質問文

次の文を読み、下線部の語句について当てはまる数字に○をつけてください。

- | | |
|---|--|
| 1 | SNS (Facebook, Twitter, LINE, mixi, ブログなど) で使用する |
| 2 | 話し言葉で使用する |
| 3 | SNS と話し言葉の両方で使用する |
| 4 | 知っているが SNS や話し言葉では使用しない |
| 5 | 知らない |
01. [1 2 3 4 5] 仕事をさがしてニートの状態から抜け出そうとおもう。
02. [1 2 3 4 5] 戦国武将については歴女 (れきじょ) である彼女に聞くといひよ。
03. [1 2 3 4 5] 私が好きなキャラクターは、ツンデレな子が多い。
04. [1 2 3 4 5] 彼の発言はときどき中二病っぽく感じる。
05. [1 2 3 4 5] 最近の赤ちゃんは個性的なキラキラネームが多いようだ。
06. [1 2 3 4 5] よくわからないからパソコンでググるね。
07. [1 2 3 4 5] もうだめかな…。いや、まだワンチャンあるとおもう。
08. [1 2 3 4 5] 新発売されたグッズがぐうかわだった。
09. [1 2 3 4 5] 今日は友達がお休みなのでぼっちで帰る。
10. [1 2 3 4 5] まだ眠いけど、いま二度寝したら寝坊フラグだな。
11. [1 2 3 4 5] 慌てていたので電車の乗り換えをしくった。
12. [1 2 3 4 5] 疲れていたんで休日は家でまったりした。
13. [1 2 3 4 5] 彼の行動は立派なセクハラだから許せない。
14. [1 2 3 4 5] 見てはいけないと思いながらもついチラ見してしまう。
15. [1 2 3 4 5] いやに安いと思っていたらやっぱりバチモンだった。
16. [1 2 3 4 5] ミスをしたから注意したのに逆ギレされた。
17. [1 2 3 4 5] あの子は面食いでイケメンにしか興味がない。
18. [1 2 3 4 5] おなかがすいたので肉料理をがつつり食べる。
19. [1 2 3 4 5] クールビズを取り入れてネクタイを着けないことになった。
20. [1 2 3 4 5] 子供が生まれて育児休暇をとった彼はイクメンだ。

21. [1 2 3 4 5] 彼は草食系男子だから恋愛には消極的だ。
22. [1 2 3 4 5] 30歳までには結婚したいから婚活(こんかつ)を始めようと思う。
23. [1 2 3 4 5] あの授業は出席も取らないし楽単(らくたん)らしいよ。
24. [1 2 3 4 5] 6年ぶりにベアを容認する方針を示した。
25. [1 2 3 4 5] 人をいじって笑いを取るなんて、とんでもない。
26. [1 2 3 4 5] 課題をやりとげた先輩はどや顔だった。
27. [1 2 3 4 5] アベノミクスによる円安が勢いを増している。
28. [1 2 3 4 5] 新宿なう。1時間だけカラオケしに来た。
29. [1 2 3 4 5] Twitterの面白いツイートをふぁぼる。
30. [1 2 3 4 5] アイドルグループで私の推しメンはセンターの子です。

[付記]

本稿は、平成26年度「特殊研究ゼミナール2」(担当:荻野綱男教授)の学年末レポートに加筆・修正を加えたものである。

(やました らな、本学国文学科4年生)